



Newspaper in Education



教育に新聞を

# 実践報告書

2019年度



## はじめに ～立体感のある授業～

静岡県NIE推進協議会  
会長 安倍 徹

授業を参観しての感想は人によって様々ですが、私自身これまで、「深みのある」、「コクのある」、「スパイスのきいた」、「躍動的な」、「余韻のある」等々、やや情緒的・感覚的ではありますが、いろいろな表現のできる授業を参観してきました。

さて、本年度のNIE公開授業が実践指定校である静岡市立清水飯田小学校で、昨年11月に行われました。5年生の「総合的な学習の時間（いいだのもり）」での小川訓靖教諭による「なぜ水は飯田にとって宝なのか～宝の意味を探る～」という単元の授業でした。この授業を参観しての私の感想は、「立体感のある授業」でした。その理由は、授業をとおして3つの軸を3次元のように感じる事ができたからです。

ひとつ目の軸は、過去から現在に至るつながり（時間軸）でした。飯田地区の住民と水との関わりの歴史から、水が命・宝物であることを学びました。

二つ目の軸は、世界での出来事と身近な出来事とのつながり（空間軸）でした。海洋プラスチックは国境を超えた深刻な環境問題ではありますが、そのことを子どもたちが自らの問題としてとらえるために、地元の三保海岸で採取してきた海砂に水を加え、そこに現れた浮遊物を目の当たりにした学習は圧巻でした。Think Globally Act Locally を実践していく大きな原動力になるのではないかと感じました。

三つ目の軸は、地域をはじめ多くの人々と学校とのつながり（敢えて言えば人間軸）でした。大学関係者や地元の環境学習委員など多くの方々に支えられて、授業が展開されているということでした。三保海岸の海砂も大学の学芸員の協力で用意されたものでした。

授業では、いくつかの新聞記事が資料として子どもたちに提示されていましたが、私が感じたことは、上で述べた3つの軸を相互に関連性を持たせながら授業を構想するために、新聞が大きな役割を担っているということであり、記事としての文字に加え、掲載されている写真も学習内容を理解する上で効果的であったということです。子どもたちも参観者も学びの充実感を味わうことのできた授業でした。

本報告書にも、様々な授業実践が紹介されており、立体感、深み、コク、躍動、余韻などを感じ取っていただけるのではないかと思います。各学校におかれては、教育活動を展開するに当たり、本報告書が活用されることを願っています。

むすびに、本報告書の作成に御協力をいただいた関係の皆様、心より感謝申し上げます。

## 目 次

### ◆NIEによる読解力の育成をめざして

富士宮市立西富士中学校 渡 邊 操…………… 3

### ◆自分なりの疑問や考えを持ち、課題を解決していこうとする生徒の育成を目指して

～NIEを生かした教育活動を通して～

川根本町立本川根中学校 滝 井 玲 緒……………10

### ◆読む力を伸ばすNIE実践

菊川市立菊川西中学校 増 田 浩 己……………15

### ◆聴覚障害児教育に生きるNIE

静岡県立静岡聴覚特別支援学校 山 根 渉……………27  
勝 又 一 歩

# NIEによる読解力の育成をめざして

富士宮市立西富士中学校 渡邊 操

## 1. はじめに

### 【本校紹介】

本校は、富士宮市北部に位置する全校生徒110名の小規模校である。校舎の後方には富士山があり、自然いっぱいの環境の中で日々生活している。地域との関わりも多く、様々な地域行事に多くの生徒が参加している。生徒数が少ないので、学年問わず顔見知りというほのぼのとした雰囲気が校舎を包んでいる。

生徒は全体的に明るく朗らかな生徒が多い。しかし、お互いをよく知っているので関わりやすい反面、不十分なコミュニケーションでも事足りてしまうという弱点も生んでしまいがちである。それも、主体的に学ぶ意識が弱く、受け身的な学習態度が多く見られるので、研究主題を「課題意識を持ち、主体的に学び合う子供の育成」として、授業改善に取り組んでいる。



### 【本校生徒の実態】

学校では、週3回読書の時間を設定し、読書活動を啓蒙しているが、読むのはその時間だけという生徒がほとんどで、家庭で読書をする生徒は少ない。また、最近の中学生が夢中になっているように、本校の生徒もネットゲームやSNSでのコミュニケーションに関わっている生徒が多い。さらに、郊外にある地域なので、リアルタイムで新聞が届かない。そのため新聞を購読している家庭は少なく、新聞を読む習慣を持っている生徒は少なく、日々のニュース等はTVやネットニュースから得ているのが現状である。

それらの影響があるのか、テストの結果を見ると、文章を読んで主題をつかんだり、文章を要約したりする力が弱い傾向があり、読解力不足が感じられる現状であった。そのような中で、NIE実践の指定を受け、今年が3年目となる。

### 【NIE実践計画】

昨年まで市のNIE実践校としての指定もあり、静岡新聞が毎日全校生徒分届くことを活かして、学校生活の中で、文章に触れる時間を授業以外にも設定し、読解や要約する時間を設けることで、子供たちの読解力育成をめざした。

その手立てとして、

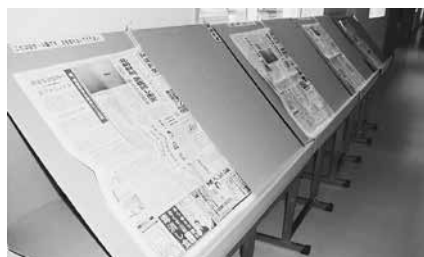
- ①新聞コーナーの設置
- ②新聞記事を読む学習時間の設定（毎週金曜日）
- ③全校生徒への新聞配布
- ④新聞の読み方講座（出前講座利用）
- ⑤新聞を活用した授業の実践を計画した。

## 2. 実践内容

### 【学校全体としての取り組み】

#### ①新聞コーナーの設置

昨年までは、毎日配達される4社の新聞を、社会科室前の廊下と学校図書館に置いていたが、社会科室は授業時のみ、学校図書館の利用者も限られてしまう傾向があるため、移動時や職員室に用事のあるときのついでに、生徒たちが自由に手に取ったり読んだりできるように、新たに職員室前の廊下に新聞をおくことにした。







職員室前の閲覧台は手作りのもので、4社の新聞が同時に見られるようになっている。同時に見ることで、一面トップの記事の大きさを比べたり、同じ記事の見出しを比べたりと、新聞社によって何に重点を置いているのかが自然と分かるようになった。

また、社会科室前に新聞が置いてあると、授業の前後に立ち止まって眺めたり、様々な教科で新聞を使うときに持って行ったりと自由に利用することができ、新聞が身近にある生活につながった。



## ②新聞記事を読む学習時間の設定（毎週金曜日）

朝の活動時間は8時～8時10分である。本校では、毎週金曜日に新聞記事を要約したり感想を書いたりする学習を行っている。この活動の準備は教員であり、担当教員が最近話題のニュースや読ませたいニュースの記事、また、グラフや表とともに読む記事を意図的に選び、プリントを作成している。

質問内容は、「見出し作り」「記事に使用されている語句探し」「要約」「感想」を主としている。

☆「見出し作り」は、記事に使われている言葉を探して入れればできる形にしている。記事を読んでキーワードとなっている言葉に注目し、見出しを完成させることで、記事が一番伝えたいことに気付くことを目的とした出題である。



☆「記事に使われている語句探し」は、あらかじめ語句の意味を示しておき、その言葉を見付けるようにしている。記事を読みながら語彙量を増やすことを目的とした出題である。

次の(■)は記事中のある言葉の説明である。その言葉を文中から抜き出そう。出典(新明解国語辞典 第七版 三栄堂)  
(■) ( ) ……物事の性質や状態がある方向に向かっていくと判断されること。

☆「要約」は記事が伝えていることをコンパクトにまとめる力の育成を目指した出題である。適切なキーワードを押さえながら、記事の内容を短くまとめる力の育成や記事とグラフや表を絡めて読む力の育成を目指した。昨年までは要約をまるごと生徒の力量に任せ、評価をするときに、必要なキーワードをどれだけ取り出して文章を書いているのかをABC評価していたが、出題者側が意図するキーワードを全て使って要約することができる生徒(A評価)は1割程度だったので、生徒の意欲向上のために、今年度は使用するキーワードを指示する方法に変えてみた。それによりA評価となる生徒が6割から多いときには9割と増加した。生徒のやる気の向上とその文章において押さえるキーワードがどれなのかに気付く手立てとなった。また表やグラフと記事を同時に読む力の向上が見られた。

新聞記事読もう

新元号「令和」  
読みは「れいわ」

（A）捉え直す機会に

見出しの(A)にあてはまる言葉を文中から探して書こう。(A) ( )

次の(B)は記事中のある言葉の説明である。( )にあてはまる言葉を文中から抜き出そう。出典(朝新聞国語辞典 第七版)

(B) ( )…お互いの意見を述べ合い合うこと。

記事の内容を要約しよう。(見出しを除いて1000字以上・日本の独自文化・世界で唯一古代の国が長年「一帯一路」大事件や歴史の転換点「新シルクロード」…一帯一路の言葉を全部使って3行以上書くこと)

日本の「元号制度」について、あなたの考えを2行以上書こう。

ポイント  
1 (A)の言葉は、第一段落の文中にある。  
2 (B)の言葉は、第三段落の文中にある。  
3 新聞記事では、はしりに括弧や重要なことを書き、その後に細かい説明がつく。  
注意 そのまま全文を書き写すのではなく、言葉を抜き出し、入れ替えてみてください。

☆「感想」は記事に対する自分の考えや思いをまとめる力の育成を目指した出題である。世の中の出来事に興味関心を持ち、自分の考えを持つ力の育成となった。

10分間の活動の中で、記事を読み質問に答えていくので、「見出し作り」と「語句探し」「要約」は毎回出題したが、「感想」は時間内の学習可能な量を考えて出題した。

日本の「元号制度」について、あなたの考えを2行以上書こう。

もし元号が変えられる時に、何物も変わってまいって思ってもいいから、元号を大切にすることを考えてほしい。だから、元号を変えてもいいとは思わない。大切にしたい。大切にしたい。大切にしたい。大切にしたい。

朝活動で実施したプリントは、各教室の廊下の個人ファイルに収納し、お互いに見合っ、まとめ方等を共有している。今年度は2月末までに22枚のワークシートに取り組んだ。



新聞記事読もう

小中学生(A)が3分の1に

学年	10月1日の視聴時間(分)	1日のテレビ視聴時間(分)
1年生	3.8時間	1時間16分
2年生	3.7時間	1時間15分
3年生	3.5時間	1時間10分
4年生	3.0時間	1時間06分
5年生	2.5時間	1時間03分
6年生	2.4時間	1時間02分

見出しの(A)にあてはまる言葉を文中から探して書こう。(A) ( )

次の(B)は記事中のある言葉の説明である。その言葉を文中から抜き出そう。出典(朝新聞国語辞典 第七版)

(B) ( )…物事の性質や特徴がある方向に向かってしていると判断されること。

記事から読み取ったこと、「小中学生の読書量とテレビの視聴時間」の表から分かったことと、それに関する自分の考えを書こう。(5行以上書けること)

ポイント  
1 (A)の言葉は、第1、3、4、9段落の文中にある。  
2 (B)の言葉は、第4段落の文中にある。  
3 新聞記事では、はしりに括弧や重要なことを書き、その後に細かい説明がつく。

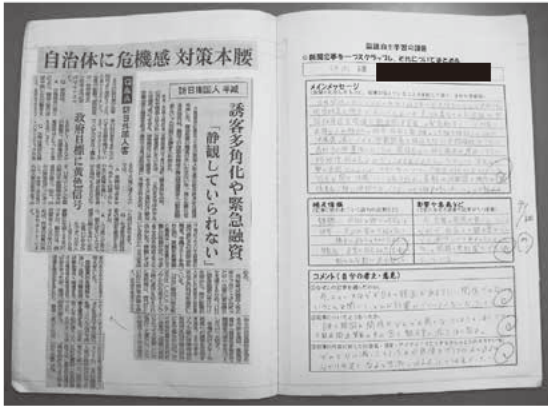
### ③全校生徒への新聞配布

市の取り組みの中に授業で活用するための新聞配布があり、昨年度、今年度ともに全校生徒に静岡新聞をいただくことができました。毎朝配布し、朝の活動時間に読んだり、家庭に持ち帰って読んだりすることができました。また、授業で使うときも全校生徒が一部ずつ持っているのが、活動しやすかった。また3年生は、週一回新聞記事を使った家庭学習に取り組み、そのときの資料としても活用した。

3年生が取り組んだノートには、左側に選んだ新聞記事、右側に生徒が学習したプリントを貼った。学習プリントの内容は、メインメッセージとして要約を書き、補足情報では難語句や重要語句の説明をし、影響や意義として記事が社会に与える影響を書いた。またコメント欄には、自分の意見や考え、例えばこの記事によりよくするための提案を書くこととした。







読む方法などを教えていただく読み方講座を全校生徒対象に行った。



☆新聞記事を一つスクラップし、それについてまとめる。

徳島新聞 2019年 9月 10日 (水) 版

**メインメッセージ**  
(新聞の見出しをもとに、記事が伝えていることを要約して書く。300字前後)  
 台風15号が首都圏を直撃した9日、近畿圏は鉄道を中心とした混乱に陥った。駅で何時間も待ちに耐えたり、日本橋の橋内やVINSの駅外では、逆方向の急行列車が走る姿も見られた。急ぎの乗客も、駅外に避難せざるを得ない状況が相次いだ。同社が、駅外に避難した乗客の安全を確保するため、駅外に避難した乗客を待たせたり、乗客を駅外に避難させたままにしたり、乗客を待たせたりするなどの対応が取られた。乗客は、駅外に避難したままにしたり、乗客を待たせたりするなどの対応が取られた。

補足情報 <small>(記事に使われている語句の説明など)</small>	影響や意義など <small>(社会に与える影響や記事がもつ意義)</small>
首都圏＝東京を中心とした地域のこと。	2020年9月10日、台風15号が首都圏を直撃した。この日は、関東地方を中心に、記録的強雨が観測され、多くの地区で土砂崩れや浸水被害が発生した。また、電力供給に障害が生じ、一部の電線が断線した。この結果、多くの地区で停電が発生した。また、一部の地区では、交通機関がストップした。この結果、多くの地区で混乱が生じた。

**コメント(自分の考え・意見)**

①なぜこの記事を選んだのか。  
 台風15号が首都圏を直撃した9日、見出しには「駅外に避難した乗客」を見て、何か問題が気になったから。

②記事についてどう思ったか。  
 これから、近畿圏の鉄道がもっと安全になるか、今の現状では、まだ、駅外に避難した乗客が、何か問題が気になったから。

③記事の内容に対しての意見・提案・アイデア(こうするといいと思う等)。  
 実際には、近畿圏の鉄道がもっと安全になるか、今の現状では、まだ、駅外に避難した乗客が、何か問題が気になったから。



(受講後の生徒の感想 抜粋)

- ・新聞の読み方のコツが分かった。読み慣れれば7～8分で全体を理解できると知ってびっくりした。毎週金曜日の新聞の読み取り学習の参考にしたい。
- ・見出しを見るだけでも情報集めにつながることを知った。ニュースで見逃したことを新聞で知ることができ、これからは読んで情報を集めたいと思った。
- ・楽に情報を知ることができるTVやネットを見てしまいがちだけど、今回教えていただいた読み方のコツを使って自分のために新聞を読みたいと思った。
- ・新聞には15万～20万文字が載っていると知り驚いた。見出しだけを見ればある程度の情報は分かったと聞き、毎日配布される新聞で実践しようと思った。

(実践しての感想 抜粋)

- ・関心の無かったニュースや地元の出来事について詳しく知ることができた。文章をまとめる力が付いた。
- ・自分の思いや意見を書くことで、相手に伝わりやすい言葉や文章を意識できた。プレゼンテーションなどにも応用できると思った。
- ・新聞記事の中にある工夫や、何を伝えたいのかが読み取れるようになった。
- ・語彙が増えた、読解力が高まった、文章を書く力が付いた。

④新聞の読み方講座(出前講座利用)

新聞の効率的な読み方が分かれば、毎日受け取る新聞を楽しみながら読むことができると考え、静岡新聞社の方に来ていただき、短時間で新聞を

⑤新聞を活用した授業の実践

本校では、3年前から全教員全教科で新聞を活用した授業の実践を行い、効果等を共有した。以下はその例である。

☆3年 国語☆

「新聞を読んで意見文を書こう」という単元において、記事選びのために新聞を細やかにチェックすることで、社会の情勢に関心をもつことにつながった。また、選んだ記事について、自分の考えを友人に話し、友人から意見をもらうという交流をした。自分の考えだけだと一方からのもの見方になってしまうが、友人か

ら話を聞くことで多面的・多角的に内容をとらえることにつながった。(R1 実施)



☆3年 社会☆

・『人間を尊重する日本国憲法 国民の意思による政治』の単元で、記事を通して、参院選獲得議席数の学習や、現在憲法改正を実現させようとしている理由や具体的な政治の動きについて学ぶことができた。

☆1年 数学☆

・『関数』の単元において、10%への消費増税から商品によって税込み価格がどのように違うのかを、軽減税率8%の商品と比較して計算するために記事を用いた。それにより、商品によって税率が違うことを理解することができた。また、新聞記事以外に消費税収と一般会計税収の推移を表すグラフを資料として加えたことで、グラフを読み取る学習につなげることができた。

☆3年 理科☆

・『水溶液とイオン』の単元において、ノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏が開発した「リチウムイオン電池」が優れた電池であることを新聞記事から読み取るとともに、吉野氏の研究に捧げる情熱の深さに触れた。電池のしくみについて学習している時の受賞報道であったため、生徒の関心も高く、興味をもって学習することができた。今回の受賞の評価理由の1つになっている「電池の小型軽量化」につながる「リチウムの軽さ」に触れたことで、原子はその種類によって質量が異なることを理解することができた。

☆2年 英語☆

・『Unit 5 Living with Robots』の単元で、自動運転システムについて新聞記事を参考にして自分の考えを書く学習を進めた。自動運転車の実用化に関する記事を読み、自分の考えを英語で書いた。AIは人間の生活を便利にするもので

・「中高生のネット依存に関して意見文を書く」学習において、新聞の記事と図表データを読み取り、それをもとに意見文を書く授業を計画した。新聞からの情報をもとに自分の考えを入れて意見文の完成を目指した。図表を読むことで記事の概要が分かり、図表だけでは不十分な情報が記事にあることに気付き、記事と図表との関連を確認することができた。(H30実施)

国語科学習指導案

1 教材名 図表などの資料をもとに意見文を書く(3/6)・3年1組・22人

2 本時の目標

- 「中高生のネット依存に関しての意見文」を書くことについて
- 新聞記事の図表が中学生ともに女子のネット依存が高いことを示していることをもとに、自分の考えを述べよとしている。
- ネット依存に関する項目の数値の表と、ネット依存が疑われる生徒の割合の棒グラフから分かることを正確に書き出す。
- 新聞記事から、注目する内容を取り出す。
- 図表や記事から読み取ったことについて話し合う。
- 図表と新聞記事の内容から、女子のネット依存が高い理由を正確に読み取り、自分の体験をふまえて書けるだけの文章が書けるとする。

3 指導過程

段階	学習活動(○教師の働きかけ・予想される生徒の表れ)	形態
導入	○図表 ○評価 ☆考えを表現する場面 読意力が活性化される学習	
考えを持つ	○ネット依存に関する新聞記事の図表を見てどんなことが読み取れるか確認しよう。 ○見出しを見るとネット依存者が中学生に多いことが分かる。女子が多いことを発表しよう。 ○棒グラフから中学生ともに女子のほうがネット依存が多い。 ○ネット依存者の割合を正確に読み取る。	全7
学び合う	○図表や記事とよく読んで注目する内容を正確に書き出す。 ○注目した内容と、それに着目する自分の考えを正確に書き出す。 ○意見文を読んだ人がその内容に納得したり受け入れたりしないという読者の立場を想像しよう。 ○図表から読み取ったことをもとに、読者の立場から文章を書くにはどうすればよいのだろうか。 ○新聞記事と図表からわかることを、書き出して見よう。 ○棒グラフから注目する項目の数値を正確に読み取る。 ○棒グラフから注目する項目の数値を正確に読み取る。 ○棒グラフから注目する項目の数値を正確に読み取る。 ○棒グラフから注目する項目の数値を正確に読み取る。	全18
振り返る	○書き出したことや自分の体験、自分の考えを入れて、意見文を書いてみよう。 ○自分もネットをしているのでその体験も書いてみよう。 ○図表や記事と自分の体験が一致する部分や一致しない部分について話し合う。 ○図表や記事と自分の体験が一致する部分や一致しない部分について話し合う。 ○図表や記事と自分の体験が一致する部分や一致しない部分について話し合う。	全10



あるが自分たちの生活には直接関係ないと考えていた生徒も新聞記事から政府が積極的に実現しようとしていることを知り、教材の内容と結び付けて考えることができた。

### 3. 実践の成果と課題

#### 成果

##### ①生徒と新聞との距離縮小

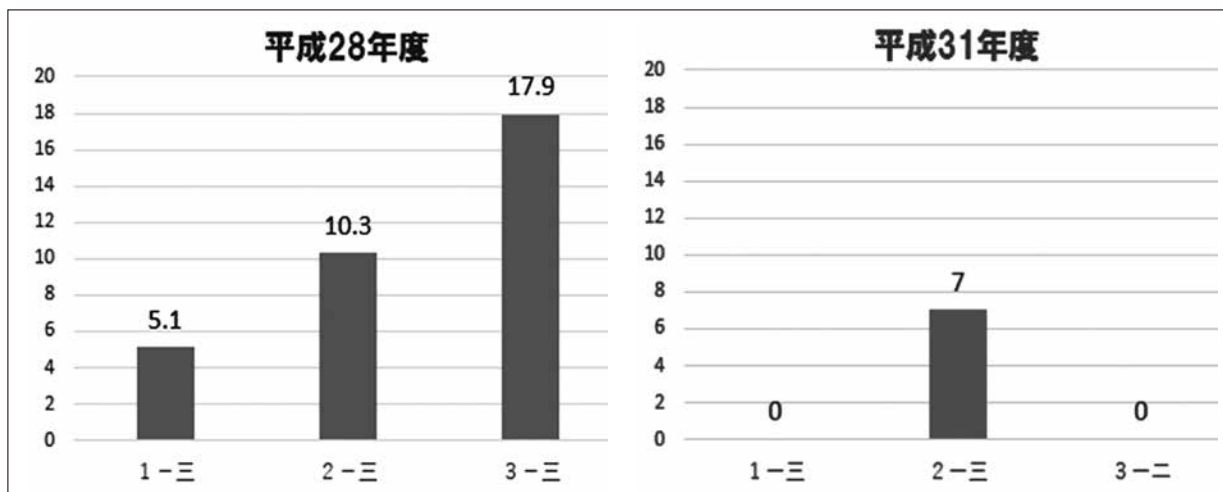
授業を実践した教員から生徒の取り組みの様子を聞くと、以下のような感想が得られた。

- ・新聞が配布されるとすぐに新聞を広げ、記事に目を通す生徒が多くなった。その結果、長い文章から要点をつかんで読むことに慣れてきた。
- ・授業で新聞記事を用いたことにより、教科の学びを実生活と結び付けて考えることができるようになった。
- ・「新聞の読み方講座」実施により、新聞を短時間で読むこと・読み方のポイント・見出しに注目する効果等を知り、新聞が身近なものとなった。
- ・「新聞記事を読む」学習を通して、キーワードを見付けたり要約したりすることが短時間でできるようになった。

##### ②テストの無解答率減少

全国学力学習状況調査の国語の結果を見ると、NIEに取り組む以前は、無解答率が高かったが、NIEによる学習を始めてからは、無解答率が減少した。また、読解し、文章で答える質問の正答率が上がった。さらに無解答率ゼロの問題も増えた。国語だけでなく、数学や理科の解答からも同様の変化が見られた。

(グラフは無解答率の変化)



##### ③新聞を読む生徒の増加

4月の全国学力学習状況調査の質問紙の質問「新聞を読んでいますか」の回答で「ほとんど読まない」が6割強であった。しかし、7月から1月まで新聞配布をした結果、校内アンケートにおいて、「ほとんど読まない」割合は1割に満たなかった。また、12月の学校評価アンケートで「新聞を読んだりニュースを見たりするなどして社会の動きに関心をもっている」という質問に7割強の生徒が「はい」と答えた。

(NIE取り組みに関する生徒の感想 抜粋)

- ・社会の授業で学習したことと新聞に載っている記事が重なっていることがあり、その記事を使つての授業は分かりやすかった。
- ・新聞を通して社会情勢が分かるのがおもしろかった。また記事に重要なことが書いてあり、それを見つけるのが楽しかった。
- ・新聞のスポーツ欄を毎日読み、詳しい情報を知ることができて良かった。ついでに他の記事も読んで社会の様子も知ることができてよかった。
- ・新聞記事を読む学習や新聞記事から自分の考えをまとめる学習は面倒だなと思っていたが、続けることで、文章問題を解くことが楽になったように思うのでよかったと思う。

(NIEの取り組みに対する教員の感想)

- ・毎週金曜日の「新聞記事を読む学習」について、1年生のスタート時は全く書けなかった生徒もいたが、3年生になりほとんどの生徒が書けているので、積み重ねは大事だと思った。現在は記事の要約にも慣れ、自分の考えを付け加えることができる生徒が増えた。

- ・新聞を購読していない家庭が増えた中で、個々に新聞配布ができたことは、新聞に親しむよい機会になったと思う。
- ・授業で日常的に新聞を活用することは難しいが、計画的に取り込むことは可能であり、教材との関わりを考えて実施することで、生徒の学習意欲の向上にもつながると感じた。

#### 課題

- ・新聞記事と学習内容との関連付けが困難であり、授業に即した資料としてふさわしい記事を見付けにくい。
- ・授業時間の中で生徒自身に記事を選ばせる際、新聞全体に目を通すことになるため、多くの時間を費やしてしまい、授業時間の確保が困難である。
- ・記事にある専門的な用語の理解が困難で、辞書で調べる時間の確保が必要となる。
- ・慌ただしい日課の中で日常的に新聞を読む時間の確保が困難である。

## 4. 最後に

ネット情報が豊富になり、どこでも情報が得られる昨今、大人でも新聞離れが増えている。しかし、じっくり読める・あとから探すことができる・読み直しができる・表現や文章構成を自分の文章づくりに活かすことができるなどの新聞のよさを伝え、活かし、進化している教育機器との共存を図りながら、また生徒主導のNIE活動を取り入れるなどの工夫をしながら、生徒たちの教育環境がよりよいものとなるように、今後もNIE活動を推進していきたい。

# 自分なりの疑問や考えをもち、課題を解決していこうとする生徒の育成を目指して

～NIEを生かした教育活動を通して～

川根本町立本川根中学校 滝井 玲緒

## 1. はじめに

本校は平成29年度から3年間継続してNIE教育に取り組んできています。29年度は研究初年度ということで、NIE教育担当が中心となり、実態調査や環境作りを中心に実施してきた。特に、放課後全校生徒で行ってきた「気になったニュースを紹介しあう」実践については、生徒自身、1年の継続期間を経て記事をまとめることや紹介することに慣れることができた。さらに、国語科や社会科教諭等個々の授業で、NIE教育を試行的に実践してきた。

平成30年度は2年目として、新聞に親しんだ生徒に対してさらに正確に読み取ったことを元に、自分の感想をもち、まとめて伝えあうこと、また思いを話し合うことを通して自身の考えを深めることができる段階にまで引き上げていきたいと考えて活動に取り組んだ。

令和元年度は、2年間の実践をふまえ、「NIEノート」を取り入れることでさらにNIEを身近なものとし、新聞との関わりを増やしてきた。授業で新聞を活用することでディベートをしたり、新聞を題材として作文を書いたりした。

## 2. 実践

### (1) NIE教育のための環境整備

〔平成29年度～令和元年度 実施〕

ア 各新聞社から提供される新聞のほか、自主財源により複数社の新聞を購入し、各教室に新聞を配架し新聞に触れさせる。(各教室 静岡新聞)

各教室に新聞ラックを設置し、静岡新聞を配架し、いつでも新聞を手にとることができるようにした。また年に4ヵ月間、7社の新聞(静岡、中日、朝日、産経、読売、日経、毎日)が届き、配架した。



イ 職員用のNIE教育関係の書籍を職員室に配架した。



ウ 川根本町や授業に関する記事を掲示するコーナーを設置







ある日の記事を他社新聞社と比較



学校教育目標「自分・人・郷土を愛する本中生」の「郷土」に視点を当てた「郷土愛コーナー」の設置

## (2) 静岡新聞社記者によるNIE出前講座 〔平成29年度 実施〕

NIEの取組を始めるにあたって5月下旬、静岡新聞社で島田市・川根本町エリアを担当している記者による、NIE出前講座を行った。



実際に一人1部静岡新聞を開きながら、新聞の構成や、取材するときや記事を書くときの留意点などの説明を受けた。偶然にも、その日の新聞には、その記者の名前入りの川根本町関連の記事が載っており、生徒たちにとって、新聞というものがぐんと身近に感じられた。

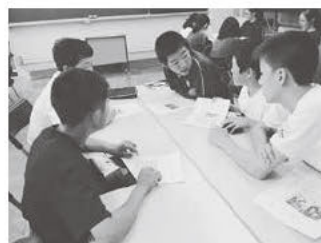
現在は、毎日、各教室に新聞が配架され、いつでも手に取って読めるようになっているので、教室で新聞を開いている生徒の姿がよく見られる。また、図書室には教室に配られるものとは別の会社の新聞が複数置かれ、読み比べられるようになっている。静岡新聞については、中部版のほかに、東部版、西部版も廊下に置かれ、自由に読めるようになっている。

## (3) NIE教育の実践（放課後学習会）

### (i) 国語科〔平成30年度 実施〕

本校では帰りの会終了後の15分間を使い、全校生徒による放課後学習（せせらぎタイム）を行っている。

各々の生徒が家庭で下記写真のようにまとめてきた新聞記事をグループ（学年混合）ごと発表し合う学習を継続して取り組んだ。しっかりと記事を読み、要約し、説明しなくてはならないため、1年生は、最初は苦戦していたが、上級生と混合でグループを設定している成果として、上級生のプレゼンを見ることで、発表方法を身に付け、回数を重ねるたびにスムーズな活動ができるようになってきた。



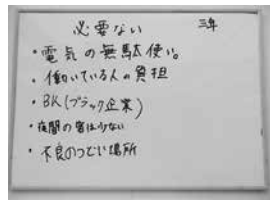
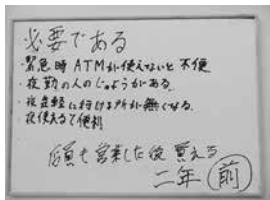


NIE教育の取り組みが新聞に取り上げられました。  
(静岡新聞 平成30年11月3日朝刊)

(ii) 社会科 [令和元年度 実施]

社会科で新聞記事を活用した話し合い活動を実施した。

本年度、社会的な問題となったコンビニエンスストアの24時間営業問題を題材に「コンビニの24時間営業は必要か」という話し合いを行った。主観だけでなく、しっかりと記事を読むことで自分の意見が固まったり、変容したりしてグループ内での話し合いが盛り上がった。上級生と混合でグループを設定している成果として、まだ1、2年生は学習していない公民の知識に触れることができたり、相手に分かりやすい発表方法を身に付けたりすることができた。



(4) NIE教育についての学習会

[平成29年度～令和元年度 実施]

3年間、NIE担当から年度当初に全校生徒に向けて学習会を開いている。令和元年度も4月に全校生徒を対象にNIE教育の学習会を開いた。2、3年生については、一昨年度からの継続であるため、NIE学習の意義や学習の進

め方を理解しているが、1年生にとっては初めての経験であるため詳しく説明をした。家庭によっては新聞を購読していない場合があり、NIE教育を推進するにあたり、新聞に親しむことを目的として実施した。



また、昨年度の課題である「情報を活用する力」や「社会情勢を見据えることができる力」を生徒に付けていきたいと考え、本年度より、新聞記事に対する個人の意見や思いをつなげるための「NIEノート」を実施することを生徒に伝えた。



(5) NIEノートの実践 [令和元年度 実施]

昨年度、取り組む中で課題となった「情報を活用する力」や「社会情勢を見据えることができる力」を生徒に付けていきたいと考え、本年度より、新聞記事に対する個人の意見や思いをつなげるための「NIEノート」を実施した。自分が興味を持った記事を見つけ、「記事の概要」、「記事に対する自分の考えや疑問」を記入し、全校生徒と校長を含めた全教職員が交互にやりとりをした。担当となった者は、まず前者の記事やその記事に対する考えを読み、自分の意見を記入することから始める。このことを通して、相手の価値観を受け入れる力や新しい情報(社会情勢など)を得る力が高まったことを感じた。また、教職員と生徒が新聞記事を通して意見交換できたのは、日常会話の中でも社会事象について言い合うことができたり、生徒の





価値観を知ったりする上でよい手立てとなった  
りした。



### (6) NIE教育の教科実践 (国語科)

〔令和元年度 実施〕

単元名 科学的に検証しよう

目的 「事実と考えを区別する力を身に付ける」  
実践

新聞社1社の発行部数、5社による1年間の  
販売部数、新聞とネットニュースの閲覧比率と  
いった資料を基に、「新聞は本当に読まれな  
くなってきているのか」について検証した。「ス  
ズメは本当に減っているか」の教材によって身  
に付けた「事実と考えを区別する力」と、「図  
表から必要な情報を読み取り、自分の考えをも  
つ力」を使いながら検証していくことで生徒達  
が身に付けた力を使う機会とすることができ  
た。さらにこの後の授業展開として、ICTを  
活用し情報を集め、ワードにまとめる追加検証  
を行った。新聞とICTのそれぞれの良さを生  
かす授業とした。

全教職員が参観し、事後研修を行ったことで、  
職員のNIE教育の意識を高めることにもつな  
がった。



### (7) 「しずおか新聞感想文コンクール」

〔令和元年度 実施〕



全校生徒を対象  
に、新聞を通じて  
活字に親しみ、思  
考力、読解力、表  
現力を養うととも

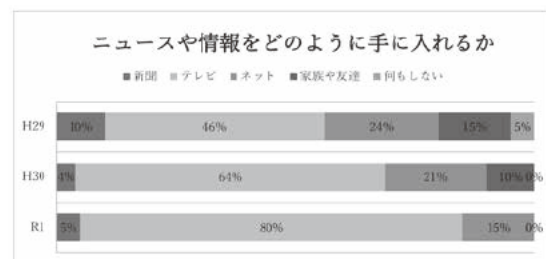


に、地域や社会への関心を高める事を目的に、  
「しずおか新聞感想文コンクール」に応募した。  
その結果、個人では本校2年生が「奨励賞」を  
受賞し、学校としては「学校賞」を受賞した。  
学年を問わず完成した作文を読み合うことで新  
たに新聞記事を読んだり、記事についての意見  
や感想を共有したりすることができた。生徒は  
作文の作成に向かい、同じ出来事を扱う記事を  
複数の新聞から読み比べたり、インターネット  
などで記事についてさらに調べたりするなど、  
自ら学んでいく姿勢を見ることができた。

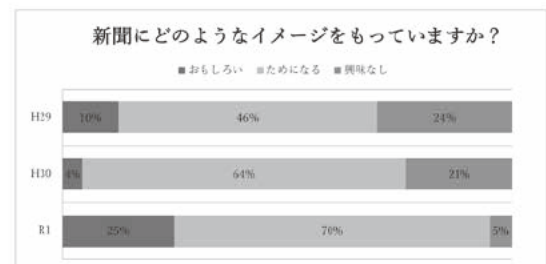
### (8) 検証〔平成29年度～令和元年度 実施〕

ア 実態調査

設問1 あなたはニュースや情報をどのように  
手に入れますか？

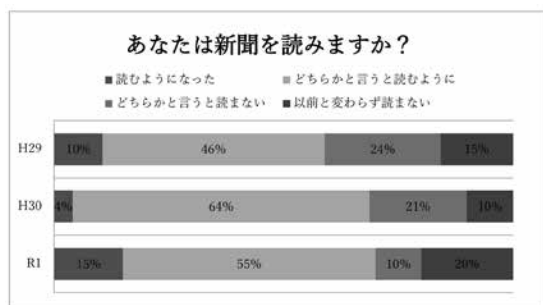


設問2 あなたは新聞にどのようなイメージを  
持っていますか？





### 設問3 あなたは新聞を読みますか？



#### イ 考察

令和2年1月にNIE教育に関する生徒へのアンケートを実施した結果が上記のとおりである。設問1からネット社会の影響もあり、新聞よりテレビやインターネットから情報を得ている生徒が多いことがわかった。しかし、NIE教育を導入した平成29年度当初と比較すると、設問2「新聞にどのようなイメージがある」に対して、「おもしろい」「ためになる」と感じている生徒が増加していることがわかる。また、設問3をみても、NIEの導入により新聞を読む生徒が増加していることが分かる。

きた。」や「NIEを行うことで情報から自分の考えをもったり社会とのつながりを感じたりすることにも繋がると思う。」といった意見を得ることができた。

予測不能な社会を迎える生徒たちにとって、情報収集すること、その情報を広い視野で考えること、さらには、情報を発信したり活用したりする力が必要になってくることを鑑みると、NIE教育の重要性を認識し、本年度以上の実践を積み重ね、生徒と新聞をより密接なものとし、情報を活用する力や社会情勢を見据えることができる力を生徒に付けていきたいと考える。

### 3. まとめ

一昨年度から環境整備をはじめ、授業や放課後学習で新聞を活用した学習をし、本年度から実施した「NIEノート」を展開してきた。アンケート調査からも明らかになったように、NIE教育によって生徒の変容（質の向上）が見られたことは大きな成果であると捉える。

担当者として、NIEの実践を行ってきて、新聞の魅力を感じる事ができた。テレビのニュースやインターネットの記事から情報が簡単に得られる現代であるからこそ、新聞の魅力を伝えていかなければならない。情報を得る手段として新聞は信用性が高いといえるだろうが、それでもその情報が確かであるのかを見極めていかなければならない。複数の新聞を読み比べたときに、生徒は同じ事実に対して全く異なる見方や考え方ができることに気付くことができた。一つの見方や考え方をうのみにせず、異なる見方や考え方を知ることが大切である。生徒の感想から「新聞を読み比べることで、新聞に載っていたから事実であると安易に決めつけずに、言葉の微妙な違いを楽しんだり、表現の仕方の違いを感じたりすることがで

# 読む力を伸ばすNIE実践

菊川市立菊川西中学校 増田 浩己

## 1. はじめに

本校は菊川市の中心地に位置し、全校546名の大規模校である。学区には駅やインターチェンジが存在することなどから、近年、宅地開発が進み、生徒数・学級数が増えている学校である。そのため、地域外から入ってくる家庭や外国人家庭等、それぞれの家庭の物の考え方は千差万別である。また、経済の格差も激しい地区である。



## 2. 実践研究の概要

### (1) 研究目的

NIE研究実践を行うに当たってまず考えたのは、「NIEを使うことによって子どもたちにどんな力がつくのだろうか」ということである。そこで、国語の「読む力」に絞り、「読む力」を引き上げていくためのNIE活動を考え実践した。



ここでの掲示は事件・事故等の悲惨な記事は扱わないようにし、色々な生徒が興味をもてるような多岐にわたる内容を月2回程度掲示し、新聞を読むことに慣れさせた。

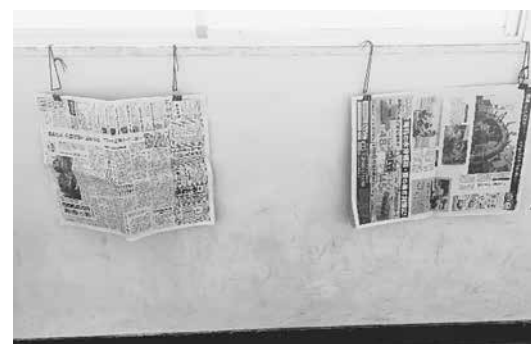
### (2) 研究方法

実践するに当たって以下の3点を考えた。

- ① 生徒が普段から新聞を読むことに興味をもたせる工夫を考えること。
- ② ワークシートを行う際、生徒に「楽しさ」を味わわせるために、訓練感をできるだけ無くすこと。
- ③ 教員にも気軽に楽しくNIE活動ができる体制を作ること。

・各学年会に新聞をクリップでぶら下げ、常時閲覧できるようにする。

また、指定一年目は①と③を中心とした活動を、指定二年目はそれを基盤としながら②を中心とした活動を行うスケジュールを立てた。それぞれの具体策は以下のとおりである。



掲示はこちらの選んだ記事しか見ることができないが、新聞の本物に触れることで自分の興味に応じた記事を探ことができ、より一層の関心が高まった。

### (ア) ①の具体策 (NIE活動の基盤をつくる)

- ・各学年の階に拡大新聞を掲示する。

- ・国語の授業を中心に新聞記事を使用した授業を展開する。(3年のみ実施)



新聞から文意を読み解く練習を行う。

これにより、読む力を養うきっかけ作りとした。(指導案 別紙資料1)

- ・職員室の新聞コーナーの設置。



教職員がまず新聞に興味をもてるように、また、新聞を気軽に授業や学級掲示に利用できるように設置した。その中で、切り抜く行為は早い者勝ちでOK というルールを作った。

- ・家庭科で新聞スクラップノート作りを実践する。



スクラップノートを課題として出すことにより、自分の興味をもった内容をより深く考えられるようになったり、自分の興味を広げられるようになったりした。

- (イ) ③の具体策(教職員が気軽に取り組める、加重負担にならないような体制作り)

- ・校内研修と絡めない独自の体制で進める

近年、時代の流れや新学習指導要領開始などにより、現場に色々な変化が要求されている。学び合いを中心とした授業改善、道徳の教科化、働き方改革による業務精選、情報機器の活用などやるべきこと、考えるべきことは多々ある。本校では今まで行ってきたそういった研修を中断して、NIEにシフトチェンジするのではなく、全く別の組織として取り組みを進め、職員全体に働きかける方法を選択した。

- ・教務主任を中心に若手を組織した実行組織で活動に一体感を出す。

学年や教科、部活顧問の主・副などバランスを見ながら若手中心の組織をつくり、実行力を第一とした。また、若手教員が楽しみながら行えるように、さらに少しでも自己研鑽の場となるように発案は教務主任が行いながら、掲示づくり、掲示張り替え、データ集計など委員全員で行うこととし、気軽に一体感を持った活動を心がけた。

〈本校組織 NIE 小委員会委員〉

- ◎教務主任 保体 副顧問 50代
- 3年担任 国語 副顧問 20代
- ・3年担任 国語 主顧問 20代
- ・2年担任 社会 副顧問 20代
- ・2年級外 理科 主顧問 40代
- ・2年級外 英語 副顧問 20代
- ・1年担任 社会 副顧問 20代

- (ウ) ②の具体策(生徒の読む力向上に向けての取り組み)

- ・週1回、朝の帯時間を使ったワークシート学習(別紙資料2)を行う。





朝8:00～8:25の時間で新聞記事からなるワークシートを実施した。簡単な新聞記事を読み、2つの間に答えるという方式のワークシートを用意し、年間16回、全学年で行った。問は1つめを「内容を問うもの」、2つめを「記事から広げたもの」と設定し、生徒が教科の小テスト感を持たないよう配慮した。

- ・ 4月、12月に読む力を測り比較する。  
(別紙資料3)



年2回生徒たちの読む力を測ることで、今回の取り組みで生徒の変容を調べることができる。テストは25分とし、生徒にあまり負荷がかからない形で実施した。

### 3. 研究成果と課題

#### (1) 結果

読解力テスト結果は以下の表のとおりである。

	集団	正答割合	無答割合
1年	4月	50.31%	0.00%
	12月	54.01%	0.00%
	上昇率	3.70 <sup>ポイント</sup>	0.00 <sup>ポイント</sup>
2年	4月	55.94%	0.55%
	12月	58.92%	0.22%
	上昇率	2.98 <sup>ポイント</sup>	-0.34 <sup>ポイント</sup>
3年	4月	59.04%	0.07%
	12月	66.60%	0.00%
	上昇率	7.56 <sup>ポイント</sup>	-0.07 <sup>ポイント</sup>
全体	4月	55.25%	0.22%
	12月	60.05%	0.07%
	上昇率	4.80 <sup>ポイント</sup>	-0.14 <sup>ポイント</sup>

#### (2) 成果

4月と12月の読解力調査を比較すると12月は4月に比べ正答率は全体で4.8<sup>ポイント</sup>、無回答率は0.14<sup>ポイント</sup>向上が見られた。学年ごとに見ても、全ての学年において12月の読解力調査が4月を上回るという結果となった。今回の結果により、NIEの取り組みは読解力の向上に効果があると言えるのではないかと。

特に3年生については、昨年度2年生の3学期、国語の授業の始め10分程度で、先駆けてNIEワークシートの取り組みをテスト的に行った。他学年より実施期間が長かった分、向上率が大幅に上がったと考えられる。

#### (3) 課題

一つ目は、国語の「読む力」をどう捉え、どう測るのか、である。お気づきの方もいらっしゃると思うが、今回比較した2回のテストは、読解力テストである。しかしながら、国語科の目指す「読む力」＝「読解力」とはならない。どんな測り方が適切だったのかが大きな課題である。

二つ目は、「読む力」を上げるために、新聞記事が適切であったかどうか、である。今回はNIEの指定をいただいて、新聞記事ありきでスタートしているが、果たしてどうなのかは、今後試みてみたい。

三つ目は、朝のワークシートの回数である。今回は各学年16回（長期休みや集会等を除くと週1回以下のペース）で行った結果である。どの位の回数がベストなのかについても今後検証してみたい。

### 4. おわりに

今回NIE指定校になったことで、普段から感じていた“子どもの読む力の向上”について研究することができた。子どもたちの読む力を高めるためには、フリー読書よりも、NIEワークシートのように同じ文を読みそこから質問に答える方式のほうが、読む力が向上することが結果だけでなく自分の実感としても感じることができた。今回はNIE活動を“読む力”に絞っていたが、今後思考力に効果があるかも研究してみると面白いのではないかと。新聞記事を

使って、公共サービスや税金がどのように使用されているのかを学んでから、租税教室を開催し、税務職員の方から税の仕組みと重要性を教えていただいた。そして、まとめの活動として、自分が予算編成を任される立場になるシミュレーション学習を組んだ。

借金返済、教育、防衛、交通、景気対策、医療・福祉、防災の7つの項目から、自分たちはどう予算を活用するかを、事前に用意した新聞記事を根拠に話し合わせた。

新聞記事を使うことで、現在動き続けている社会状況に合わせた学習活動になり、また新聞記事の内容を関連付けることで学習内容が自分たちの現在、または将来に関わりがあることを意識させることができた。

【別紙資料1】

国語科 授業案

授業者 佐藤 雅

- 1 日時 1月25日(金) 1時間目 2年6組 3時間目 2年2組  
 1月28日(月) 5時間目 2年4組  
 2 単元名 根拠を明確にして意見を書こう(3/6)  
 3 単元計画

第1時 新聞記事の文章構成の工夫を知ろう 第2時 課題から自分の意見の軸を考えよう 第3時 意見を支える根拠を考えよう(本時)	第4～5時 意見文を書こう 第6時 意見文を読み合い、意見を深め合おう
---	--

単元の軸

本単元では、自ら設定した課題について、意見や根拠を明確にしなが、意見文を書く活動を設定する。自分の考えや意見・伝えたいことをいかに分かりやすく的確に伝えるかという点に特化した新聞に触れることにより、文章構成の工夫を学ぶ。また、自分の意見を支える根拠や情報・資料を収集するためのツールとしても新聞を扱う。

4 本時の構想

(1) 目標

目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを根拠を明確にして書く(書くこと ア)

(2) 展開

進	学習活動(○生徒の表れ●教師の活動)	総時間	留意点 ☆支援 ◎評価
つかむ	自分の意見を支える根拠や資料を、新聞から見つけよう ● 自分の意見の軸を確認しよう ○ 自分は新元号の事前公表に対する意見を書こう ○ 2019年の新年景気動向について調べてみよう	一斉 5	☆自分がどのような軸で意見文を書いていくのかを確認し、明確にする。
考える	どんな根拠や資料があれば、相手が納得する意見文になるだろうか。 《新元号の場合》 ○ 元号選定の流れ ○ 「逝去」と「退位」による改元の違い ○ 政府の方針決定の理由 ○ 有識者の意見 ○ 「平成」が始まったときの新聞や資料 ● 新聞から自分の意見文に必要な情報・資料を集めて、メモを作ろう ○ 元号制定の流れは知らない人が多いから書いておいたほうがいいかな ○ 僕たちが生まれた「平成」になったときのこと分かる、意見がまとまりやすいかもしれない	個 5 一斉 10	・教師が示す例をもとに考える ・前時に班でテーマをひとつにしぼる。 ・単元が始まるまえに、課題を予告して新聞記事を読んでおくように指示を出しておく。
たしかめる	● ペアのメモを見て、相手が納得する意見文の根拠になっているかどうか確かめてアドバイスしよう ○ 事前公表することによるメリットやデメリットなどが具体的に書かれていて分かりやすくなっている ○ 有識者の反対意見にたいする自分の考えを書いておく方がより納得できると思う	個 20 小集団 10	・調べ学習に入る前に、自分の意見文に必要な根拠を項目で挙げさせる ☆新聞だけでは難しい場合には、Ipadも使用可にする ・次時から意見文を書き始めることで活動の流れのイメージをもたせる

(3) 評価

社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、自分の考えの根拠を新聞記事から見つけられているか、意見文メモをもとに評価する。(書くこと ア)



【別紙資料2-①】

～新聞の部屋～

☆新聞記事を読んで、問題に答えよう！

氏名 ( )

土偶 左脚と90年ぶり「再会」



寒河江市で大正期に出  
土した山形大付属博物館(山  
形市小白川町)が所蔵して  
いる「結髪土偶」の左脚が  
見つかった。長らく所在が  
不明だったが、寒河江市が  
所蔵していた出土遺物が左  
脚と判明した。昨年11月に  
同市から山形大に寄贈さ  
れ、上半身とともに同博物  
館で展示されており、関係  
者は約90年ぶりの「再会」  
を喜んでいる。

結髪土偶(高さ15センチ、  
幅16センチ)は縄文晩期のもの  
で、髪を結つたような頭部  
が特徴。寒河江市の石田遺  
跡で出土した。

同博物館によると、19  
21年(大正10年)に出土  
したとみられ、所有してい  
た地主が間もなく、地元  
の博物館に寄贈。上半身は  
その後、同大付属博物館の  
前身である山形師範学校郷  
土室に移されたが、左脚の  
所在は長い間不明だった。

だが昨年7月、郡山女子  
大短期大学部(福島県)の  
会田啓弘教授の指摘で、結  
髪土偶の腰と構構が連続し  
ていることや断面の状態か  
ら、寒河江市が所蔵する出  
土遺物が左脚であることが  
分かった。左脚は、同じ地  
主の手孫が同市に寄贈し  
ていただいた。

山形大付属博物館は、上  
半身と左脚を結合させること  
を検討している。

☆問1 見つかった左脚は、なぜこの土偶のものだったのでしょうか？

☆問2 あなたが今、土偶をお墓に埋葬するならどんな形にしますか？絵  
に描いてみましよう。(線からはみ出してもかまいません)

【別紙資料2-②】

～新聞の部屋～

☆新聞記事を読んで、問題に答えよう！

氏名 ( )

産業道路駅(ま地下化)で  
京急など  
駅名変えたい



公営の京急線が並ぶ京急  
駅の「産業道路」(山形市)

京急電鉄が今72駅の駅名を  
網の手もたらから参りだ。このうち  
8駅は変更を検討する。地域の変化に  
合わせた新たなイメージ作りが狙い  
で、一方地域の裏側とかけ離れ、も  
駅名を委ない鉄道社もある。な  
なのか。

46駅で検討  
「子育て世帯が住みなく  
な駅名にしてほしい」。

京急電鉄大師線「産業道路  
駅」(山形市)の運転監視  
士は、所所の主婦(30)は切  
望だ。

開設は1944年開業

周辺に工場があり、駅に面  
する海浜川駅直下駅等遠  
東大橋横浜通称「産業  
道路」と呼ばれてきたと  
になみ、名付けられな  
なな、住宅も多い。主婦は  
転居してきた約6年前、駅  
名から空気が悪そうな印象  
を覚つたという。「6歳も  
多々住みやすい街は」と  
と話す。

東京・品川から山形へ  
浜田市を経て三朝半車まで  
まで、京急は創立した1944年  
を記念し、72駅の駅名を治  
網の小中学生から募集。先  
見で締め切り、約1000  
件の応募があった。公共施  
設や中継の最寄り駅として  
なじみ深い場所などを除く  
46駅の駅名を候補してい  
る。

このうち産業道路駅は  
候補に挙がっている。今年度  
中に駅が地下化され、海  
と開けられ、駅舎も  
駅前広場が今後整備さ  
れ、とが理由だ。京急は  
「新たな駅のイメージ作  
りだ」とする。発する  
駅の公表は来春だ。

東京・新橋と豊洲を結ぶ  
「ゆりかもめ」も来春、月  
「国際市場正門駅」(江

東区)を「東京ヒツサイ  
ト駅」に改称する。駅線の東  
京ヒツサイトの方が広  
く営業しているとの判断が  
ら。東富田郡市界の南  
町田駅は駅周辺の開発の完  
了に合わせて、2019年度  
中に駅名を「南町田ラン  
ペリ」に改称す  
る。

そのまま  
10月6日、豊洲市場移転  
に伴い、閉場した豊洲市場  
し、豊洲駅の運営大  
江戸線「豊洲市場駅」はそ  
のまま。豊洲「場外市場」  
は壊れており、そのままの  
方がランドイメージも  
良いと考えたと理由を語  
る。

☆問1 記事の中から、駅名が変わる駅を3つ書きましよう

現在の駅名	新しい駅名
	来春発表

☆問2 鶴川駅は駅名を変えたほうが良いと思いますか？理  
由も書きましよう



三

久しぶりに同窓会へ行ったら、かつての同クラスメートが会社を立ち上げて大成功をおさめていた。話を聞けば、立場も収入も自分とは天と地ほどの差がある。

その友人がこれほど、いざや、だつたとしても、じれんもの①胸中は複雑である。仲間への成功を手放して祝福できればいいが、現実にはなかなかそうもいかない。かつて同じ教壇に机を並べていたのに、いつの間にか差がついたのか。どこか始まりもつな寂寥感を抱くので、人間としていざやの間の感情だ。

しかし、他人の幸運や成功を心から願って祝福できる人間は好感度が低いといつたのは少し事にはなく、深く憂うことがあることなのだ。

②「環境」といつたものは、あく原因の結果と作られている。あなたがいまの会社に働いているのに、それに至る原因が必ず存在するからである。他人への妬みは、真のヒネリキーから来られる。これを人々に押しつけることもできるが、それは自分の内面に鬱積し続ける孤独を厭うだ。

しかし、妬みを抱える嫉妬や他人の幸運を妬む素直さは周囲の人々を味方につけ、むしろ物質的な能力を上げる結果となる。他人の成功を願った寛大さやゆとりが好感を呼び「この人のためなら支援しよう」といつた心理につながるのだ。

つまり、良い行いには良い結果がついてくるといつたわけである。「憎むは人のためならず」といつたわけがあるもので、他人にかけた憎むはめぐりめぐって自分に返ってくる。これは仏教的な※因果の報いがある言葉であるといつても、心理学といつた側面からみても、※「人心掌握術」の王道なのである。

※因果の報い … 過去の行いの善悪に依りて報いがあるといつた語

※人心掌握 … 人の心を手に入れて自分のものにすること

問一 「胸中は複雑である」とあるがそれはなぜか。記号で答えなさい。

- A 友人の成功や収入の豊かさを聞いてその人のしつこく嫉妬に悩むので
- イ 友人の成功を聞いて自分の能力が足りないうちに気づいてしまったから
- ウ 友人の成功を妬みつつもいつか寂寥感を抱くので
- エ 友人の成功は心から祝福できるものではないので

問二 「環境は〜作られている」とあるが、例を挙げながら、記号で答えなさい。

- A 必ず何かしらの原因があって、現在その会社に働いているのだといつたこと
- イ 自分が働く環境を整備するために、悪い原因を取り除く必要があるといつたこと
- ウ 大きな原因や理由がなければ、一気企業に転職することは不可能だといつたこと
- エ 会社の環境は、社員たちの個人的な感情に基づいて成り立っているといつたこと

問三 筆者が①の文章で憂うことを述べた理由は、どのようなことか。記号で答えなさい。

- A 成功した友人に対して妬みつつも寂寥感を抱くので、人間としていざやの間の感情だ
- イ 妬みを抱える嫉妬や他人の幸運を妬む素直さは、仏教的にはなく心理学においても善い結果をもたらす
- ウ 「憎むは人のためならず」といつたもので、特に他人に憎むをかけるいざやの感情を基に
- エ 他人の幸運を素直に望む姿勢こそが、周囲の人々の好感を呼びやすく成功につながるのだ











四

初めて会った時のわたしは、いたく逞者をホール・イン・コースプレーだった。亜葉の投げるボールやトースクを羨望に感じ、華麗に投げ出めて、自尊心を足取りで眠らせている。気がしつた大はきと、亜葉の投げ振ったボールを見て、よく多量川に飛び込み、亜葉に叱られた。

わたしは驚いた。その驚きゆえに、コート上いつくせから放たれて自由を満喫していた。しかし、ホールやトースクを投げる時以外は、亜葉からメールも離れることはなく、亜葉が①物欲にかられた時、店の外であまり待っていた。わたしは、亜葉を神にも等しい存在だったのだ。スティーを握りかかれば、それこそ、②長時間たつて同じ姿勢で亜葉を眺めていたこと。

もちろん、わたしは亜葉の初コートは、わたしは初対面でもあったけれど。わたしはわたしを鬱鬱無礼に投げてしに求めたものでした。私が頭を撫てれば尻尾を振る。だが、その時も視線は亜葉に向けられていた。わたしが握りかかってもそれは見事に無視された。わたしは、亜葉を神だが、わたしはあつた者の御人なのだ。

いや、今考えれば、③わたしはわたしの心を騙されたのかかもしれぬ。わたしはわたしを握りかかっていた。そのかたのトートは、亜葉はわたしを握りかかっていた。そして、ロケットの強靱や駄目な子にまつる条件はありそこにもあった。

※くわも … 自由にならなうためのもの ※鬱鬱無礼 … 表面は正しく見えても裏で無礼なことをし

問一 「物欲にかられた時」はどのような時か。記号を記入せよ。

- A お腹がすいて何かがあつて食べたくなつた時
- Y いし物を置くために粘り強く交渉する時
- U 遊びで使うボールやトースクを興奮に投げるとき
- H 置く物に行つて欲しいものを探している時

問二 わたし長時間たつて同じ姿勢で待っていたことと関係するものは、記号を記入せよ。

- A 亜葉が神のようになり、命令をきらなれはならなかつたから
- Y 亜葉はわたしに、唯一の存在で、意識をいつく知覚したから
- U わたしは驚いたので、たぶん言つたことがあつた性格だから
- H わたしはコートをついてくれば、亜葉の命令に従つてつづいたから

問三 「わたしの心を騙された」とあるがわたしはどんな気持ちでいたのか。記号を記入せよ。

- A わたしは初対面だったが、大はきのおかげで亜葉に好かれたかと思つて
- Y わたしは母をうつたしと握りかかっていたが、無視されてしまつて
- U わたしは亜葉へのトートを奪取してみたので、わたしは邪魔にも感じた
- H わたしは亜葉へのロケットの強靱を奪われ、わたしを騙された

# 聴覚障害児教育にいきるNIE

静岡県立静岡聴覚特別支援学校

山根 渉  
勝又 一歩

## 1. はじめに

本校は聴覚障害をもつ幼児児童生徒へ指導をしている。聴覚障害児は、「聞こえにくい」という特性を起因として、さまざまな困り感をもって生活している。それが言い換えれば学習・生活面で「課題」となって表れる。

### 聴覚障害児によく見られる課題の一例

#### 学習面

- 言語力（語彙力、文法力、読解力など）の不足
  - 年齢相応の既有知識（世界知識）の不足
  - 概念形成や抽象的思考の未発達
- 概念形成：経験を通じて概念を作り上げる過程
- 抽象的思考：物事の共通性を見出し、まとめる力

#### 生活面

- 環境音が聞こえないことで、危機察知が遅れる。
  - ・テレビやラジオ、校内放送が聞き取れない。
  - ・後ろから来る自転車や車に気付けない。
- 聞こえが原因となった対人トラブルが発生する。
  - ・他人の発言を誤解したり、誤解されてしまう発言をしてしまったりする
  - ・経験不足により受け身の姿勢になりやすい
  - ・「暗黙のルール」を知らない

これらの課題を解決するためには、手厚い「情報保障」が必要となる。新聞という情報媒体は、その「情報保障」の観点から見ると素晴らしい教材である。

	新聞の特性		聴覚障害児教育との関連
1	一覧性	一面に多様な情報が記載されている	狭い世界観を広げるとともに、世間の流行に触れることができる。
2	解説性	ニュースについて分かりやすく解説されている	表面的な理解だけでなく、因果関係まで把握することで誤解がなくなる。
3	詳報性	多くの情報、データを詳しく伝える	語彙を増やすとともに、1つのニュースを深く調べる学習に利用できる。
4	保存性・記録性	過去の記事も保存・整理し、繰り返し読める	時系列でニュースを追えるとともに、他紙との比較で多角的に考えられる。
5	軽便性・再読性	持ち運びが簡単で、気軽に読むことができる	いつでも読める気軽さが、主体的に情報を得る姿勢につながる。
6	確認性	後で読み直し、情報の再確認ができる	繰り返し読むことで誤読を防ぐことができる。

## 2. 実践の概要

### (1) 新聞に親しむための実践

#### ○新聞コーナーの設置

他の実践校の取組を参考にして、まずは「新聞に親しむ環境づくり」から取り組んだ。子どもだけでなく、教員にも新聞を読んでもらえるように、職員室前に新聞コーナーを設置した。大人が新聞を読んでいる姿を見せる方が親しんで読むことにつながると考え、各教員にも積極的な利用を呼び掛けた。



〈職員室前新聞コーナー〉



〈新聞を準備する生徒〉



〈過去一ヶ月の新聞は机下へ〉

○新聞タイムの設定（中学部）

毎週1回、朝学習の時間を新聞タイムとして設定した。少人数の強みをいかし、会議室を貸し切って新聞を大きく広げ、リラックスした環境で新聞を読めるようにした。また、友達とニュースについて自由に意見交換してもよいことにした。新聞タイムは生徒にも好評で、実践が2年目、3年目となるにつれて、週の新聞タイムも2回、3回と増えていった。



〈会議室での新聞タイム〉

〈NIEと聴覚障害児教育のリンク〉

- ・その日のニュースを目にして、社会情勢に触れる。
- ・ニュースに関する友達の意見を聞くことで、自分とは違う見方・考え方に触れさせる。
- ・聴覚障害児は、その聞こえにくさから相手の話を正しく理解できないときがある。新聞を通した対話は、互いの話をすり合わせる練習にもつながる。

○朝の会でのニュース発表（中学部）

各学級の朝の会で、その日の新聞記事を切り取ってワークシートに貼り、友達に紹介する「ニュース発表」の時間を設定した。細かいルールはそれぞれの学級の実態に合わせて工夫したが、おおむね「ニュースの概要を5W1Hで説明する」「そのニュースに関する自分の感想を述べる」「友達からの質問に答える」という手順で取り組んだ。



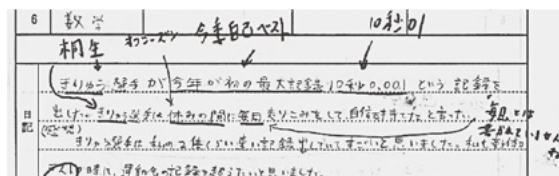
〈ニュース発表をする様子〉



〈発表用ワークシート〉

〈NIEと聴覚障害児教育のリンク〉

- ・新聞記事から5W1Hを読み取る練習を繰り返し、言語力の向上を図る。
- ・手話・指文字の練習を兼ねる。
- ・友達に伝わるように話したり、理解して質問できるように聞いたりする練習を通して、正しく情報を送受信する力を養う。



↑ニュース発表の内容について書かせた日記。短く分かりやすい内容であっても多くの誤受信が発生している。担任が日々丁寧に正しく受信しているか確認し、間違っている場合は本人に自覚させたり正しい内容を伝えたりすることで、「情報を正しく受信する力」が養われる。



(2) 新聞活用学習（新聞で学ぶ）の実践

○NIE幹事会の授業参観（2018年4月18日 中学部）

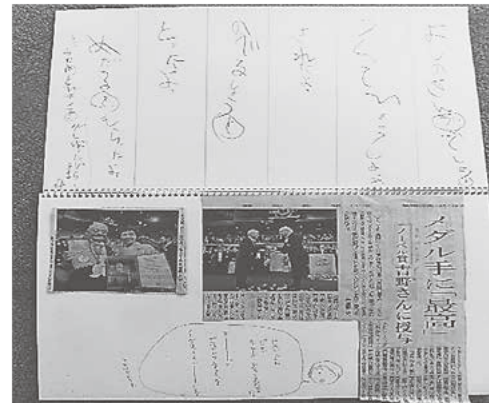
実践2年目には、本校にてNIE幹事会が開かれた。その折に、気になる新聞記事をペアで選んで発表する授業を参観いただいた。気になる記事をペアで選ぶというだけで、普段のニュース発表よりもハードルが上がった。また、それぞれが興味のある分野が異なることに気付くこともできた。



〈新聞を題材に話し合う様子〉



〈授業の様子〉



〈幼児が自主的に書いた日記〉

〈NIEと聴覚障害児教育のリンク〉

- ・聴覚障害児同士のやり取りも、すれ違いが生まれることも多い。  
新聞を介して話し合うことで、正しい情報を伝え合うことができるようになる。
- ・「誰がどの記事を選び、それに対してどのように思うのか」を知ることで、他人がどのような感情を抱いているのかを知ることができる。(これを感情のモデルを示すという)

○幼稚部での活用

本校には幼児の通う幼稚部もあり、幼稚部でもNIEに取り組んだ。主に新聞記事の写真に注目させ、言葉でのやりとりを促すような支援に用いた。この取り組みは、聴覚障害児教育における「概念形成につなげる」「語彙を増やす」などと関連するが、同時に幼稚園教育においても非常に有効な取り組みであった。

〈NIEと聴覚障害児教育のリンク〉

幼稚園教育要領の環境の項目にも「日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。」「生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ」とあるように、幼児は身近なことから社会とのつながりの意識をもつことが目指される。発達段階としても、5歳程度になれば目の前の情報と積み重ねた経験を結び付けて考えられるようになってくる。

新聞に用いられる写真は、そのニュースを1枚で表現するような象徴的なシーンが選ばれており、幼児の発話を促しつつ、社会とのつながりの意識を養うには格好の教材と言える。

具体的には、台風の記事を用いて今日の天候の話をしたり、事故の記事を用いて救急車の知識や悲しみという感情を共有したりするような実践が行われた。その影響もあってか、ある幼児は自主的にノーベル賞受賞に関する記事を絵日記に貼って「私もマラソンがんばったらメダルがもらえるかな。」と書いてきたこともあったという報告を受けた。

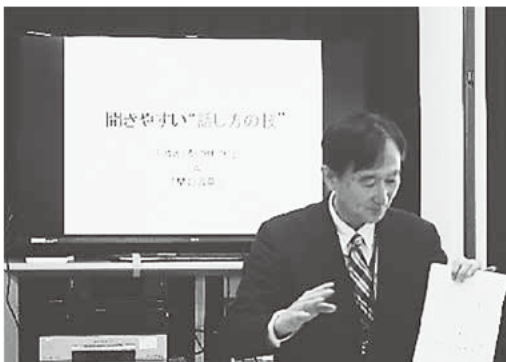
### (3) 新聞機能学習（新聞で学ぶ）の実践

○NIE出前授業(2018年10月26日 中学部)

実践2年目には、静岡新聞社の出張授業を利用した。新聞の基本知識や構造について教えていただいただけでなく、講師のアナウンサー経験を生かして「聞きやすい話し方」についてもご指導いただいた。



〈出前授業の様子〉



〈発音指導の授業〉

#### 〈NIEと聴覚障害児教育のリンク〉

- ・言語力の向上が課題である聴覚障害児は「分かりやすく伝わるように書く」ことも、苦手とする傾向にある。その点、新聞は文章のモデルとしても最適である。新聞記事の大事なことから書き出す「逆三角形」の構造や、5W1Hを上手に盛り込む書きぶりを学ぶことで、読み手を意識した分かりやすい文章を書く力を養うことができる。
- ・聴覚障害児教育において、発音指導は大きな柱のひとつである。自分の声を聴いて修正することが難しい聴覚障害児にも分かるような、具体的な発音指導をしていただいた。この授業で教えていただいた発音練習法や活舌練習用の例文は、本校の自立活動課にも紹介し、今後も学校全体で取り組む発音指導の資料集にも組み込んだ。

### (4) 新聞制作学習（新聞で学ぶ）の実践

実践の集大成として臨んだ3年目は、特に新聞制作学習に力を入れて取り組んだ。小・中学部それぞれが、総合的な学習の時間を中心として「新聞づくり」を行った。

#### ①小学部での取り組み

小学部では、高学年の総合的な学習の時間において、新聞づくりを単元計画に組み込んで実践に取り組んだ。4・5年生という2学年にまたがった学級であったため、総合的な学習の時間の4年生のテーマ「福祉」を1～2学期に、5年生のテーマ「情報」を3学期に設定し、それらのテーマを調べ、新聞にまとめる活動を繰り返し行った。



〈作った新聞〉

#### ②中学部での取り組み

中学部では総合的な学習の時間において、主に行事の振り返りとして新聞制作を設定し繰り返し取り組んだ。年度初めに皆で自分たちの新聞の名前を考え、「静聾NINE新聞」と名付けた。年間5回「入学・進級」、「運動会」、「職場見学・修学旅行」、「学習発表会」、「2020年」というテーマで、生徒それぞれが内容や、見出し、構成等、これまでのNIEでの学習を活かして考え、制作した。第三者が読んでも伝わるか、用紙1枚の中に収めることができるか、間違った情報になっていないか、正しい文章表現になっているか等を教師が問いかけながら制作を進めた。



〈新聞の名前について話し合う様子〉

#### 〈NIEと聴覚障害児教育のリンク〉

自身の体験したことを要約して伝えることも、聴覚障害児は苦手とする傾向にある。新聞づくりは教員のやりようによって様々に展開することが可能であるが、今年度の取り組みでは字数を制限することで「要約して伝える」ことに主眼を置いた。普段読んでいる新聞の文章を参考にしながら情報を取捨選択して書く活動は、授業の最後に分かったことをまとめるときに必要な「抽象的思考力」を養うことができる。

### 3. 成果と課題

本校の実践における一番の成果は、聴覚障害児教育や幼稚園教育でも新聞は有用な教材だと確認できたことである。NIEに取り組んでからその効果を感じられるまで少し時間を必要としたが、1年2年と継続して実践に取り組んでいくことで、少しずつ子どもに変化が見られるようになった。新聞記事を5W1Hで要約できるようになったり、ニュースを多角的な角度から考えられるようになったりするなど、確かな成長が感じられた。

そして、より効果的にNIEを活用するには「NIEの目的を明確にすること」が肝要であることも分かった。新聞はたくさんの特性をもつ教材である。どの特性を用いて、子どもにどんな力を身に付けさせたいのかを焦点化できると、新聞の有用性が更に高まる。

課題は、担当者がNIEの魅力为学校全体に広めることがスムーズにできなかった点だ。NIEの経験が浅い教員の中には、どのように取り組んだらいいか悩むこともあっただろう。しかし、NIEは授業者次第でどんな場面でも取り組むことができる力をもっている。その魅力をもっと学校全体に広めていければ、NIEの研究も更に深まったのかもしれない。実践校でなくなってからも、NIEの魅力はより多くの人に伝えていきたい。



## 静岡県N I E 推進協議会 実践指定校一覧

- 2000年度 熱海高、磐田・城山中、静岡西高、静岡聾学校、天竜・下阿多古中、静岡・長田南小、浜松・東小、三島・佐野小、掛川・桜木小
- 2001年度 静岡西高、静岡聾学校、天竜・下阿多古中、静岡・長田南小、浜松・東小、三島・佐野小、掛川・桜木小、長泉高、小山・北郷中、浅羽中
- 2002年度 長泉高、小山・北郷中、浅羽中、静岡城北高、磐田南高、浜松城北工業高、静岡中央高、焼津中、湖西中、静岡・富士見小、熱海・初島小、浜北・大平小
- 2003年度 静岡城北高、磐田南高、浜松城北工業高、静岡中央高、焼津中、湖西中、静岡・富士見小、熱海・初島小、浜北・大平小、天竜養護学校、加藤学園暁秀中・高、浜松・江南中
- 2004年度 天竜養護学校、加藤学園暁秀中・高、浜松・江南中、沼津城北高、静岡サレジオ高、城南静岡高・中、浜松・天竜中、韮山中、磐田東中・高、富士宮・大富士小、大井川東小、掛川・日坂小
- 2005年度 沼津城北高、静岡サレジオ高、城南静岡高・中、浜松・天竜中、韮山中、磐田東中・高、富士宮・大富士小、大井川東小、掛川・日坂小、湖西高、沼津高中等部、岡部中、浜松・芳川北小
- 2006年度 湖西高、沼津高中等部、岡部中、浜松・芳川北小、清水西高、日大三島高・中、東海大付属翔洋高、西部養護学校、磐田・一中、浜松日体中・高、静岡・長田北小、浜松・竜禅寺小、牧之原小
- 2007年度 清水西高、日大三島高・中、東海大付属翔洋高、西部養護学校、磐田・一中、浜松日体中・高、静岡・長田北小、浜松・竜禅寺小、牧之原小、不二聖心女子学院、沼津・静浦中、静岡・安東小、浜松・豊岡小、御前崎・一小
- 2008年度 東海大付属翔洋高、不二聖心女子学院、沼津・静浦中、静岡・安東小、浜松・豊岡小、御前崎・一小、大井川高、浜松・雄踏中、磐田・豊田南中、御前崎・浜岡中、静大付属静岡中、静岡・清水小河内小、三島・徳倉小、清水町立南小
- 2009年度 浜松・豊岡小、御前崎・一小、大井川高、浜松・雄踏中、磐田・豊田南中、御前崎・浜岡中、静大付属静岡中、静岡・清水小河内小、三島・徳倉小、清水町立南小、川根高、浜松江之島高、富士・吉原三中、浜松学芸中・高、静岡・大里西小
- 2010年度 御前崎・浜岡中、静大付属静岡中、川根高、浜松江之島高、富士・吉原三中、浜松学芸中・高、静岡・大里西小、常葉学園中・高、下田東中、島田・金谷中、袋井中、静岡・東源台小、浜松・与進小、東伊豆・稲取小
- 2011年度 浜松江之島高、浜松学芸中・高、常葉学園中・高、下田東中、島田・金谷中、袋井中、静岡・東源台小、浜松・与進小、東伊豆・稲取小、島田高、島田樟誠高、静岡・清水五中、浜松・北部中、御殿場・南中、磐田・神明中
- 2012年度 常葉学園中・高、島田・金谷中、磐田・神明中、静岡・東源台小、浜松・有玉小、島田高、島田樟誠高、静岡・清水五中、浜松・北部中、御殿場・南中、富士宮東高、掛川工業高、浜松・三ヶ日中、焼津・大村中、静岡・安西小、静岡・城北小、沼津・原小、静岡サレジオ小

- 2013年度 富士宮東高、掛川工業高、浜松・三ヶ日中、焼津・大村中、静岡・安西小、静岡・城北小、沼津・原小、静岡サレジオ小、金谷高、浜松城北工業高、静岡・高松中、浜松・積志中、裾野・深良中、島田高、常葉学園中・高、島田・金谷中、静岡・東源台小、浜松・有玉小
- 2014年度 金谷高、浜松城北工業高、静岡・高松中、浜松・積志中、裾野・深良中、裾野高、駿河総合高、島田商業高、静岡・清水興津中、南伊豆・南伊豆中、静岡・清水三保第一小、浜松・平山小、富士・田子浦小、島田・川根小、浜松・三ヶ日中、焼津・大村中、静岡・安西小、浜松・有玉小
- 2015年度 裾野高、駿河総合高、島田商業高、静岡・清水興津中、南伊豆・南伊豆中、静岡・清水三保第一小、浜松・平山小、富士・田子浦小、島田・川根小、東海大付属小、金谷高、静岡・高松中、浜松・積志中、裾野・深良中
- 2016年度 駿河総合高、島田商業高、静岡・清水興津中、南伊豆・南伊豆中、富士・田子浦小、東海大静岡翔洋小、三島南高、静岡聖光学院中・高、浜松・可美中、裾野・富岡中、静岡・井宮小、富士宮・上井出小、森小
- 2017年度 東海大付属翔洋小、三島南高、静岡聖光学院中・高、浜松・可美中、裾野・富岡中、静岡・井宮小、富士宮・上井出小、森小、遠江総合高、静岡・観山中、本川根中、富士宮・西富士中、浜松・西都台小、静岡聴覚特別支援学校
- 2018年度 三島南高、静岡聖光学院中・高、富士宮・上井出小、静岡・井宮小、遠江総合高、富士宮・西富士中、静岡・観山中、本川根中、浜松・西都台小、静岡聴覚特別支援学校、清水西高、菊川西中、西伊豆・田子小、静岡・清水飯田小
- 2019年度 富士宮・西富士中、本川根中、静岡聴覚特別支援学校、清水西高、菊川西中、西伊豆・田子小、静岡・清水飯田小、浜松西高、常葉大附属橋高、小山中、伊豆の国・韮山南小、吉田・自彊小、湖西・白須賀小、浜松・城北小

## 静岡県N I E推進協議会

〒422-8033

静岡市駿河区登呂3丁目1番1号

(静岡新聞社内)

TEL 054-284-9152

FAX 054-284-9362